

# 笠間市ふるり旅!



日本三大稲荷「笠間稲荷神社」



川崎城跡公園(矢板市)



笠間城跡



笠間クラインガルテン



田舎暮らし体験「おためしの家」(矢板市)

## 姉妹都市から学んだもの



「笠間つつじ公園」約8,500株のつつじが咲きほこる



長峰公園(矢板市)



陶器の祭典「陶炎祭」



8月開催予定「あんどんまつり」(矢板市)

公園を脇目に坂を登りながら城跡に着いた。ひっそりと空気が漂う石の階段を登っていくと本丸に到着。木々の隙間から笠間市内を垣間見ることができた。塩谷朝業の二男である笠間時朝がここで過ごし、市内を眺めていたのかと思うと感慨深いものがあった。同時期に造られた山城だからだろうか、自然の地形を生かした空堀や曲輪の様子が矢板市の川崎城跡と似ている雰囲気を感じた。

車に乗り降り際に「笠間クラインガルテン」を視察。ここは、簡易宿泊施設と農園がセットになった区画を年間40万円借りることができるという。農園を耕していたり、パーベキューをしたりと、現在入居している皆さんが自由な時間を過ごされていた。

一日を振り返りさまざまなことが頭をよぎる。一番は、一日でいろいろな所を見ることが出来て、とてもお得な気分になったこと。それと笠間市が都市との交流をとても意識しているのを感じたことだった。あまり調べていかなかったが、簡単に市内の観光スポットを回遊することができた。いや、できるようなっているのかもしれない。また、道を聞いた人たちがとても親切でおもてなしの心に溢れていた。この日は、JRの「駅からハイキング」も行われており、私のように多くの方々が地図を片手に市内を散策していた。このように大規模なイベント同士や観光スポット同士が連携する陰には、多くの皆さんの努力と工夫が隠れているのであろう。

矢板市も都市との交流人口を増やすことに力を入れている。市内には優れた観光名所が多くあり、最高に楽しいイベントが沢山ある。笠間市のように、それらが手を取り合い連携することで、矢板市に来ていただく方に、大きな価値を提供していくことができれば、さらに交流人口を増やしていくことが出来るのではないかと。そう矢板市の可能性を強く感じた一日でした。

5月3日(祝)8時、笠間市に向け出発。高速道路が若干混んでいたが、約1時間半で到着。最初の目的地「笠間つつじ公園」を目指す。至る所に案内看板が設置してあり、迷わず駐車場に着くことができた。入場料を払い園内に入ると急傾斜に咲いている巨大なつつじの株が目に入ってきた。斜面をうまく活用しているため、長峰公園とはまた違った角度から色とりどりのつつじを楽しむことができる。約8500株と言われている多くのつつじは圧巻だった。頂上の展望台に登るとつつじの群生と共に周りの山々が一望できる。矢板市はコチラと案内版に載っていたのがとてもうれしかった。

つつじ公園を後にし、いよいよ笠間焼の祭典「陶炎祭」の会場へ向かう。シャトルバスが頻繁に運行していたために、「笠間芸術の森公園イベント広場」にすぐに着くことができた。市内は多くの車で渋滞していたが、シャトルバスのルートを確認し、スムーズに到着できるようになっていたのは、時間のない日帰り旅行者にはとてもうれしかった。会場には200以上の陶芸家・窯元・地元販売店がそれぞれ個性豊かな店づくりと作品でお客様を迎えていた。この祭りが茨城県で最も多くの人を集めるイベントだという。好きな作家の作品を見たり、イベントに参加したり、簡易テントで休んだり皆さん思い思いに楽しんでた。また、キッズランドや授乳スペースなど家族連れが楽しめる、長時間滞在できるようにする仕掛けが、多数用意されていたのは、とても勉強になった。

そこからは、市内を周遊するバスに乗り日本三大稲荷である「笠間稲荷神社」に向かった。この時期は、大きなフジの花が満開に咲き誇り、その香りとともに私たちを迎えてくれた。参道には、笠間市のご当地グルメである「いなり寿司」を扱っている店が並び、小腹を満たしてくれた。

その後は歩いて「笠間城跡」を目指す。途中、坂本九さんが幼少を過ごした家に立ち寄り、つつじ